

飯島製材所

木製パレット・木箱などの梱包製品、木質ペレットなどの製造、販売

代表者名 代表 飯島 省二

設立年月日 1945年(昭和20年)1月1日

所在地 〒405-0042 山梨県山梨市南305

T E L 0553-22-0462

F A X 0553-23-2554

E-Mail info@ijima-seizaisho.jp

U R L https://www.ijima-seizaisho.jp/

業 種 木材・木製品製造業

資本金額

従業員数 13人

インタビュー



代表
飯島 省二

テーマ 超高速製材システムの導入による生産量の増大と間伐材の利用促進

N T B (新型帯鋸の高速製材) システムの導入により、製材スピードを従来の2倍にあげることができ、これまで困難だった間伐材と16cm程度の小径木の丸太の製材もできるようになった。作業の効率化による生産量の増大と、低コストで低質材の製材が可能になり、自社で原木から木製品まで一貫加工出来る強みをいかながら、他社との差別化をより図ることができるようになった。



木製パレット

飯島製材所は輸送時に使用される木製パレットを主力に、木質ペレットや梱包木箱などを製造している。木製パレットは積載製品の大きさに応じてサイズを調整することが可能なため、輸送用資材としてさまざまな業界での需要が安定している。一方で積載製品ごとにサイズが違いため多品種小ロットの対応が必要で、取引先からの要求に応じたジャストインタイムの供給が求められる。

同社は山梨県内の立木を購入し、伐採～製材～加工～配送までを一貫して自社で行うことで、短納期のニーズやあらゆるサイズの注文に応えているが、現状のシステムでは製材スピードの限界や、鋸の歯などを調整する目立て加工技術の継承などの課題があった。

帯鋸を使用して丸太を製材する大割作業は、丸太の太さや形状により製材方法を変えなければならず、作業によって作業スピードが大きく変わってしまう。さらに間伐材の場合は建築材用丸太と違い、曲がっていたり、節があったりして大割作業に向いていないため、作業スピードが低下してしまう。スピードを上げられたとしても、帯鋸がスピードに耐えられず破損する可能性もあり、作業者の安全性に問題が残る。

また大割作業では自社で帯鋸の目立て加工を行っていて、製材する木材に合わせて鋸を作り上げる必要があるが、機械での加工が困難で熟練技術者の経験とノウハウによるところが大きい作業もあり、その技術継承ができていなかった。

これらの課題を解決するために今回、超高速製材が可能なNTBシステムを導入した。送材車の動力源が油圧走行から電気走行となり、さらに新型帯鋸盤となったことで、切削スピードがそれまでの30m/分から60m/分と2倍に上げられるようになった。

遠隔操作も可能になり、作業者の安全性も改善した。

また新システムは帯鋸そのものの形状が異なるため、熟練技術者による手作業が必要だった目立て加工時間も大幅に削減でき、困難だった技術の継承も短い時間で可能になった。

さらにこれまで難しかった間伐材や小径木の丸太の製材も加工できるようになったことで、低コストで低質材の製材が可能になり、他社では受け入れが困難な原木も受け入れることができ、差別化を進めることができるようになった。



新たに導入したNTBシステムを使った大割作業



目立て加工の様子

環境保護を考えた製品も積極的に展開



敷地内には大量の丸太が積み

木製パレットなどの梱包材は、モノを輸送する時には必ず必要なものだが、輸送する製品によって細かくサイズが異なり、必要な時に必要な量だけ発注があり、細やかな対応やスピードが求められる。そのニーズにしっかりと応えているのが、飯島製材所だ。

同社は伐採から製材、加工、配送まで自社で一貫して行っていて、それが大きな強みになっている。丸太から加工しているので細かいサイズ指定にも対応でき、納期日数もコストも抑えることができる。さらに今回、新システムを導入したことで製材スピードが上がり、より差別化を進めることに成功した。

取引先は誰もが知っている世界的な大企業から、県内の中小企業までさまざま。「大手精密機器メーカーから毎日発注がある一方で、小さなワイナリーは年に1回という発注もありますが、どれも大切なお客様です」と語る飯島社長。その真摯な姿勢が信頼につながっている。

同社は環境保護を考えた取り組みも積極的に行っている。平成16年から手掛けているFSC認証製品は、世界の森林から切り出された木材の流通や加工のプロセスを認証する国際機関FSCが、森林の環境保全に配慮し、経済的にも持続可能な形で生産された木材に与える認証で、同社は毎年FSCの審査を受け、認証を取り続けている。

県内でFSC認証パレットを製造しているのは同社のみで、飯島社長は「梱包材は使い終わったら廃棄されるライフサイクルの短いものだけに、環境に与える負荷が少なく、安心して使ってもらえるように、FSC認証に取り組んでいます。アマゾンでは木がどんどん切られて砂漠化が進んでいますが、その現状を知らずに木製品を買っている人は多いと思います。FSC認証製品が買う人にそういう状況を知ってもらい、関心を高めてもらうきっかけになればと思っています。安心して使ってもらえる製品を選択できること、それも大切だと思います」と力を込める。



木製パレットの製造作業

仕事をする上で、世の中の役に立つことは大事



県内一の生産量を誇る木質ペレット

平成21年からは、山梨県内でいち早く木質ペレットの製造も開始した。たくさんの丸太を製材する同社では、端材をチップにして県外の製紙工場に納めていたが、もっと有効利用ができないか、地産地消できないかと模索し、木質ペレットの製造プラントを立ちあげた。

県内の商業施設や地元山梨市の市役所や小中学校などに供給していて、県内一の生産量を誇る。木質ペレットでもFSC認証製品を製造していて、それは日本でも同社だけの取り組みだ。

「仕事をしていく上で、世の中の役に立つということはとても大事だと思うんです」と飯島社長は言う。今回の新システムの導入も、製材量の増産が実現しただけでなく、増産に伴い端材も増え、木質ペレットの生産量の増加にもつながっている。加工技術や生産性の向上は企業にとって確かに他社との差別化になるが、これからは飯島社長のような環境保護に対する熱い想い、それを行動に移し継続していくことが、他社との大きな差別化につながっていくのではないだろうか。



ペレットの製造プラント